

住人十色

第48回

地元の伝統工芸を担いたいと 手すき和紙職人の道を歩む

成見 優子さん(21) 平岡



◎撮影時は別の作業をしていた成見さん。「ちょっと紙すいてあげたら？」という社長の声に、快く1枚すいてくれました

天神産神工場で手すき和紙職人の道を歩む成見優子さん。先輩に教わりながら腕を磨き、2回目の春を迎えました。

「1年はあつと言う間でした。学生時代より早かったかも」と話す成見さん。「紙すきは一枚の重さが決まっています。その感覚を身に付けるのが大変。早く覚えて、みんなのようにスムーズに仕事がしたい」と目を輝かせます。

工場ではベテラン職人とも「ちゃん」付けで呼び合うそうで、成見さんはそんなアットホームな職場が大好きだと言います。50年先輩の稲月千鶴子さんは「優ちゃんは手先が器用で仕事が丁寧。1年目なのに良くやってくれます。失敗を恐れず頑張つて」とやさしく声をかけます。

専門学校でグラフィックデザインやイラストを専攻していた成見さん。休日は音楽を聴きながら絵を描いて過ごすそうです。「ジブリが好きで、男鹿和雄さんが特に好き。サイン持ってます」とあどけない表情を見せます。

5月にローテンブルク市文化交流事業に参加するため、語学を猛勉強中。「天神産紙の代表として恥ずかしくないよう頑張ります。海外は初めてなのでいろいろ吸収して、今後のものづくりに生かしたいです」と意欲旺盛でした。

編集 幸記

▽4月から広報担当になりました兵頭裕次です。この1カ月、広報が多の人に支えられ作られていることを実感。未熟な取材に応じて頂いた皆さんに感謝します。早く一人前になるよう頑張ります。よろしくお願ひします。(裕)

▽広報係2年目として、広報うちここと議会だよりを作成しましたが、これほど忙しいとは。今までの広報担当者におんぶにだっこの現状を後悔するとともに、これからもっと広報のことを勉強したいといけなさと感じました。(力)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

